

土質力学 河上房義著 森北出版 刊

この本は内容として、総論、土の分類、土中の水分とアッターベルグ限界、圧密、セン断抵抗、土圧、ノリ面の安定、基礎、土中の透水と排水、土の凍害、土の締固め、路床と路盤、土質調査の試験の13章と、付録として日本工業規格土質試験法とよくなっている。

この本は新制大学における土質力学の教科書、従つて同時に若い技術者の入門書を目的として書かれている。各章の終りに演習問題をのせたのもそのためである。そのために本文だけで221ページという短いスペースに土質力学の全貌を盛込もうとするのであるから、これはなかなか

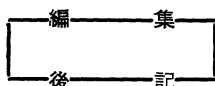
困難なことである。そこで著者も思いきつて最小限度に圧縮しようと苦心しておられるようである。およそ基本的な学問対象を、短いスペースで、しかもわかりやすく書くということは、著書が相当の練達の手であると同時に、学生や若い技術者に温い好意と指導経験をもっているものでなければやり得ないものである。この点著者はうつつつけの人だと思ふ。とくに土質力学は学校の科目としては比較的新しいものであり、わが国には教科書として適当なものが絶無といつてよいほど少なかつた。その点この本はこうした要望に答えるものとして時期をえた出版である

と思う。

しかし前述したように大学の授業時間数にマッチするというのを第見一要件と考えておられるので、いささか簡単すぎて物たらないと思うところも出てくる。これはやむを得ないこととは思ふが、もう100ページほど増して書いていただけたらと考えるのはやはり無理だろうか。

それよりもむしろ別途に将来 Taylor の Fundamentals of Soil Mechanics 程度の教科書を書いていただくことを切望することの方が妥当かも知れない。

著者：正員・工博・東北大学教授 A 5判 (210×145 mm) p. 278, 上製函入, 定価 480 円, 昭和 31 年 4 月 1 日発行



うつつしい梅雨の最中に本号をつくりました。その気分を

吹き飛ばそうと佐久間ダムの夜景を中心に口絵写真を集めました。できればいかがでしょうか。口絵は本誌のカンパでもあり、少しでもよいものを皆様に贈りたいと願っています。

全会員に読んで載せ、利用して載くのが本誌の使命です。会員の過半をしめる、しかも次代を担われる准員、学生員各位の諸欄への投稿をお待ちしています。楽な気持ちで御利用下さい。

(小林・杉田・久保 記)

随筆の中の随筆

遂に出版された鈴木博士の随筆

日本大学教授 工博 鈴木雅次著
元内務技監

土木屋さん

今すぐ書店で!

新書判 168 頁
130 円

絶賛発売中!!

目次

- 真玉橋の翁
- アルプスの雪は喰えるか
- ロストボール
- 清きエンジニヤへの花束
- 美女・王様・僧正
- 得恋橋
- 名答弁
- 官庁水滸伝
- 河みなど繁昌記
- 土木屋さん
- 法科工科の二すじ道
- 私のドラゴンズ
- スキウスプレー起源
- 米国でプロ入りを懇望された友人
- 牛肉は一匹で買う土木技師
- 利根川の主
- トララーバスの悩み
- 自由は道路から
- 万歳のテクニク
- ボストン新埠頭のさびブル
- 倭寇美人を繋ぎ留めるケイブル
- 酔牛のおどり
- 水揚げ
- 津に紅灯は消えた
- 南蛮貿易の記念
- セントの鰻料理
- 若きエンジニヤへの賛歌
- 広重と錦帯橋
- 酒間の奥義皆伝
- 山から海へ自然との対談

振替東京 22426 番
電話青山 (40) 7360

筑土書房

東京港区青山南町
6の43(青山ビル)

代理取次 国土開発調査会
東京銀座6の4 (交詢ビル603号)

面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白

面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白随筆面白

応力測定法 応力測定技術研究会編 朝倉書店 刊

材料力学の実験的研究における応力測定の占める地位は重い。しかもその方法が戦中戦後を通じて格段の進歩をとげながら、全貌を窺い知る好著には恵まれていなかった。本著は今日の発展段階において応力測定法がどんな内容を持つか、どのように用いたらよいかを、原理的にしかも平易に解説したものである。

その目次は；総論（応力解析を含む）、機械的歪計、電気抵抗線歪計とその回路、容量型歪計、電磁型歪計、振動測定、残留応力測定、応力塗料、類似現象による応力測定、平面及び三次元光弾性実験、X線応力測定に大別され、各章末には引用文献が多数掲載され、巻末には詳細な索引が付加されている。いづれの方法についても根本原理より始まり、実際の計器の構造実験方法に至るまで、ていねいに説明され、こと応力測定に関するかぎりありとあらゆる事項が網羅され、本書につきるとの

印象も受けるのである。

それならば、本書さえあればすぐ実験に取りかかれるかというところはゆかない。尨大なページ数を持つ本著ではあるが、収めるべき内容がさらに輪をかけて多い。そのため初心者に実験操作の手ほどきをするところまでは手がまわらない。土木関係でしばしば行う野外実験では、他に見られない、しかも結果を左右するような難事がつきまとうが、それらについてもごく簡単にしか述べられていない。もつともそれら微妙な事項はそもそも本著のねらいでなからうし、うまく活字で表現されるものでもあるまい。身近な斯界の経験者に委ねられることであろう。

本書を評して Hetényi 編 “Handbook of experimental Stress Analysis”(1950 年刊, 1077 ページ) の日本版とする人もいる。なるほど類似点を本の組立て方——共通であるべき測定記録装置の説明が、ある章

の片隅に混在させられていたり——；本の内容——Hetényi とはほとんど別個に執筆された章がある一方、図版の過半がそれから採録されたと思われる章もあつたり——などに見ることができる。がしかし不要な部分が大幅に省略され、わが国としての必要事項が付加されているのは見逃せないし、その辺に編者の意図するところが含まれているようである。とにかく、わが国で容易に入手しうる計器が説明され、またわが国での研究成果もかなり引用されている点は Hetényi と異なる点である。編集意図がしからしめたのであろうが、本著には土木関係での研究があまり顧慮されていないから、その点は本学会誌および論文集などを参照しなくてはなるまい。

いずれにせよ応力測定法の全貌を平易に解説し、かつ比較的廉価に提供する企画としては事宜を得た著書といえるであろう。

B5 版 (257×182 mm) p. 748, 上製函入, 図・写真 711, 定価 1900 円

会 員 欄

◇ 一編集者の側から ◇

土木学会誌の編集に 2 年間関係してきましたが、後半の 1 年近くは新しい方針の会誌を生みだすべく、星塾理事のもとで編集委員並びに企画委員の方々といろいろと智慧を集めて考えて参りましたところ、ようやく年度変りの 4 月からスタートし得たことを嬉しく思っています。実はその前から会誌登載予定の論文が、限られた誌面になかなか処理しきれず、順次おくれて 1 年も待たなければ

ば日の目を見ない状態で、これでは投稿者の意慾をそぐことはなほだしものと思ひ、編集会議のたびごとに考えさせられておりましたが、幸いに新方針によつて論文集の回数も増し、ページ数も増したので、今後は次第にうまくゆくものと思ひます。

会誌が会員にとつて、もつとも望ましい形になるためには、今後もう少しばかりの経験が必要ですが、生気にみちた、しかも全体としてバランスのとれたものにするためには、統一ある編集企画に従いようように、委員会が機動力を持ちうる組織が必

要で、これは今後編集部の宿題となると思ひます。

論文集も、そのまま外国に出して少しも見劣りがしないように、いい紙で、きれいな印刷をしたものになれば、内容もますます向上するでありましょうし、会員にとつても大事に読んでいただけるものとならうと考えられます。

最後に編集者にとつて何よりも力づけられるのは、会員の素直な反響でありましたことをつけ加えさせていただきます。

【正員 後藤 正司】

昭和 31 年 7 月 10 日 印刷
印刷者 大沼正吉
編集兼発行者 中川一美
定 価 100 円

昭和 31 年 7 月 15 日 発行
印刷所 株式会社 枝報堂
発行所 社団法人 土木学会
振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 41 卷 第 7 号
東京都港区赤坂溜池 5 番地
東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地
電話 (20) 3945・4078 番